

令和6年度		授業計画書						
学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30	
実務経験	現在鍼灸施術院の院長	担当者	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2	
到達目標	1. 筋の種類や起始一停止、生理的特徴を理解し、イメージできる。 2. 筋肉を理解した上で、ストレッチや経絡、穴を用い、体の機能改善をすることができる。			評価方法				
授業概要	筋肉の動きや解剖の知識を理解し、ストレッチ(主にスタティックストレッチ)や穴などで体感しながら、臨床現場で必要な技術の習得を行う。体感することで、基礎知識の理解を更に深めることを目的とする。			期末試験 60% 小テスト 20% 授業内発表 20% (100点換算で60点以上で合格)				
教科書等	解剖学	使用器材	提示装置					
週	授業項目・内容						実施結果	
第1週	ストレッチ体験							
第2週	神経について(中枢神経・末梢神経・神経叢) (P122、136、138)							
第3週	臀筋群(大臀筋・中臀筋・小臀筋・大腿筋膜張筋) 起始一停止・作用 (P187)							
第4週	臀筋群 ストレッチ							
第5週	臀筋群 穴							
第6週	腕神経叢 肘の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴(テニス肘、ゴルフ肘)							
第7週	腰神経叢・仙骨神経叢							
第8週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 起始一停止・作用 (P266)							
第9週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 ストレッチ (P266、217、223)							
第10週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 穴 (P266、217、223)							
第11週	股関節の痛みに対する評価(SLR含む) アプローチ法 ストレッチ・穴							
第12週	前脛骨筋・後脛骨筋 起始一停止・作用 (P275、278)							
第13週	前脛骨筋・後脛骨筋 ストレッチ・穴							
第14週	足の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴							
第15週	まとめ							
授業外 学習指示等	1. 小テストを行う前には事前に復習を行うこと。 2. 発表担当者は、事前に予習をし練習をしておくこと。							

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.消化器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.泌尿器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 3.生殖器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第4章 消化器系 1 消化管の基本構造 (1)粘膜						
第2週	2 口腔 (1)口蓋・軟口蓋 (2)口峽と扁桃 (3)舌 (4)歯 (5)唾液腺						
第3週	3 咽頭 4 食道 5 胃						
第4週	6 小腸 (1)十二指腸 (2)空腸と回腸 (3)小腸の組織構造と機能						
第5週	7 大腸 (1)盲腸 (2)結腸 (3)直腸 (4)大腸の組織構造と機能						
第6週	8 肝臓 (1)肝臓の位置と形状						
第7週	(2)肝臓の組織構造						
第8週	9 胆嚢 10 膵臓 11 腹膜						
第9週	中間試験						
第10週	第5章 泌尿器系 1 腎臓 (1)腎臓の構造 (2)腎臓の血管						
第11週	2 尿路 (1)尿管 (2)膀胱 (3)尿道						
第12週	第6章 生殖器系 1 男性生殖器 (1)精巣 (2)精路 (3)外生殖器(外陰部) 4)精液						
第13週	2 女性生殖器 (1)卵巣 (2)卵管 (3)子宮 (4)膣 (5)外生殖器(外陰部)						
第14週	3 受精と発生 (1)受精 (2)卵割 (3)着床 (4)胚葉の形成 (5)胎盤						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の個々の細胞・組織・器官がどのような性質を持ち、どのように働くのかを理解、習得することを目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第10章 神経	A.ニューロンの構造と働き B.神経線維の興奮伝導					
第2週	第10章 神経	C.シプナス伝達 D.中枢神経系の分類と機能					
第3週	第10章 神経	E.反射 F.脊髄 G.脳幹 H.小脳 I.視床 J.視床下部					
第4週	第10章 神経	K.大脳 L.脳脊髄液 M.末梢神経系					
第5週	第10章 神経	N.自律神経系①					
第6週	第11章 神経	N.自律神経系②					
第7週	第11章 筋	骨格筋の構造と働き					
第8週	第11章 筋	筋収縮の仕組み					
第9週	第11章 筋	筋のエネルギー供給の仕組み 心筋と平滑筋					
第10週	第12章 筋	心筋と平滑筋					
第11週	第12章 運動	骨格筋の神経支配					
第12週	第12章 運動	運動の調節①					
第13週	第12章 運動	運動の調節②					
第14週	第12章 運動	錐体路系					
第15週	第12章 運動	錐体外路系					
授業外 学習指示等	予習・復習は配布プリント、教科書を熟読すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 身体各部(骨盤・股関節、膝関節、足)の機能について説明できる。 2. 歩行・異常歩行について説明できる。 3. 顔面・頭部の筋について説明できる。 4. 運動路・感覚路および反射と随意運動について説明できる。			評価方法			
授業概要	鍼灸施術に必要な整形外科的所見等を運動学の観点から理解できるよう解剖学の運動器領域を再確認しながら、運動学の基礎、身体各部の機能を学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学	使用器材	パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	B. 身体各部の機能 5. 骨盤・股関節の機能 1) 骨盤・股関節の構造						
第2週	2) 骨盤・股関節の動きと作用するおもな筋 3) 骨盤・股関節の動き						
第3週	4) 股関節の異常						
第4週	6. 膝関節の機能 1) 膝関節の構造						
第5週	2) 膝関節の動きと作用するおもな筋						
第6週	3) 膝関節の異常						
第7週	7. 足の機能 1) 足(足関節と足部)の構造						
第8週	2) 足関節の動きと足に作用するおもな筋 3) 足のアーチと変形						
第9週	8. 正常歩行と異常歩行 1) 歩行とは 2) 歩行のサイクル 3) 歩行の速度とエネルギー消費						
第10週	4) 歩行の分析 5) 異常歩行						
第11週	9. 顔面・頭部の筋						
第12週	A. 運動学の基礎 3. 運動路と感覚路 1) 運動路 2) 感覚路						
第13週	4. 反射と随意運動 1) 反射とは 2) 脊髄反射						
第14週	3) 姿勢反射と立ち直り反射 4) 平衡反応 5) 連合反応と共同反応 6) 随意運動						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学総論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野 大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	現代医学で用いられる診察法と検査法を理解する。			評価方法			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 習得した基礎医学から臨床医学の概要を理解する。			期末試験 85% その他(出席状況、授業態度等) 15% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学総論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 診察の概要 第2章 診察の方法 1						
第2週	第2章 診察の方法 2						
第3週	第2章 診察の方法 3						
第4週	第3章 生命兆候(バイタルサイン)の診察 1						
第5週	第3章 生命兆候(バイタルサイン)の診察 2						
第6週	第4章 全身の診察 1						
第7週	第4章 全身の診察 2						
第8週	第4章 全身の診察 3						
第9週	第5章 局所の診察 1						
第10週	第5章 局所の診察 2						
第11週	第5章 局所の診察 3						
第12週	第6章 神経系の診察 1						
第13週	第6章 神経系の診察 2						
第14週	第6章 神経系の診察 3						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床に必要な各臓器の主な疾患について概念、疫学、成因や病態生理、症状、診断および治療などについて詳しく教授する			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	感染症 その1						
第2週	感染症 その2						
第3週	感染症 その3						
第4週	感染症 その4						
第5週	消化管疾患 その1						
第6週	消化管疾患 その2						
第7週	消化管疾患 その3						
第8週	消化管疾患 その4						
第9週	消化管疾患 その5						
第10週	肝、胆、膵疾患 その1						
第11週	肝、胆、膵疾患 その2						
第12週	肝、胆、膵疾患 その3						
第13週	肝、胆、膵疾患 その4						
第14週	肝、胆、膵疾患 その5						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学概論Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 経絡理論が説明できる。 2. 四診が説明できる。 3. 弁証が説明できる。 4. 論治が説明できる。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論は古代中国の基本的な思想・理論、診察から治療方法までの概要が含まれている。陰陽五行思想や天人合一思想などの思想観、気・血・津液、精と神、臓腑と経絡などの身体観、東洋医学の診察法(四診)、病因と病機、病証などの診断法と疾病観など東洋医学の基本的な知識を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、配布プリント、 針灸学【基礎編】	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	生理と病理 第3節 「経絡」 その①						
第2週	「経絡」 その②						
第3週	第4章四診 第1節 「望診」 その①						
第4週	その②						
第5週	第2節 「聞診」						
第6週	第3節 「問診」その①						
第7週	その②						
第8週	その③						
第9週	第4節 「切診」						
第10週	第5節 「四診合算」						
第11週	第5章弁証論治 第1節 「弁証」 その①						
第12週	その②						
第13週	第2節 「論治」 その①						
第14週	その②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	経絡経穴概論Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	経絡経穴の概要、経脈の流れ、及び経穴の位置などを述べるができる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴について主に教科書とスライドを使い説明する。また、授業の冒頭で小テストを行い知識の定着を図る。			中間 + 期末試験 70% 小テスト30% ※出席状況等も加味する場合がある (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター・白板等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	演習問題 と その解説(国家試験の過去問をベースに)						
第2週	手の厥陰心包経流注と経穴(天池—中衝:9穴)の部位 演習問題						
第3週	小テスト 手の少陽三焦経流注と経穴(関衝—天井:10穴)の部位 演習問題						
第4週	小テスト 手の少陽三焦経の経穴(清冷淵—糸竹空:13穴)の部位 演習問題						
第5週	小テスト 足の少陽胆経流注と経穴(瞳子髎—完骨:12穴)の部位 演習問題						
第6週	小テスト 足の少陽胆経の経穴(本神—維道:16穴)の部位 演習問題						
第7週	小テスト 足の少陽胆経の経穴(居髎—足竅陰:16穴)の部位 演習問題						
第8週	小テスト 足の厥陰肝経流注と経穴(大敦—期門:14穴)の部位 演習問題						
第9週	中間試験とポイントの説明						
第10週	解答解説 奇経八脈において ※督脈、任脈除く						
第11週	小テスト 奇穴(四神聡—接脊:12穴)の部位と主治 演習問題						
第12週	小テスト 奇穴(痞根—十宣:13穴)の部位と主治 演習問題						
第13週	小テスト 奇穴(鶴頂—脚気八処:11穴)の部位と主治 演習問題						
第14週	小テスト 現代的経絡経穴の研究について 演習問題						
第15週	小テスト トリガーポイントについて 配布プリント 演習問題						
	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること 3 講義後、分からない所があれば講義後に先生に質問し、できるだけ当日中に理解すること						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (東洋医学編) I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 総論に関する鍼灸臨床・治療穴・手技と手法が説明できる。 2. 疼痛に関する I～XIIIの疾患の鍼灸療法が説明できる。			評価方法			
授業概要	1年次の東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)、配 布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床 (配布プリント参照)						
第2週	第2節 治療穴とその応用 (配布プリント参照)						
第3週	第3節 手技と手法 (配布プリント参照)						
第4週	第2章 各論 第1節 疼痛 I. 概説 (配布プリント参照)						
第5週	II. 頭痛 (配布プリント参照)						
第6週	III. 顔面痛 (配布プリント参照)						
第7週	IV. 関節痛 (配布プリント参照)						
第8週	V. 頸肩腕痛 VI. 上肢痛 (配布プリント参照)						
第9週	VII. 肩関節痛 (配布プリント参照)						
第10週	VIII. 腰下肢痛 (配布プリント参照)						
第11週	IX. 腰痛 X. 下肢痛 (配布プリント参照)						
第12週	XI. 膝痛 (配布プリント参照)						
第13週	XII. 胸痛 (配布プリント参照)						
第14週	XIII. 腹痛 (配布プリント参照)						
第15週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学論) I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野 大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	临床上、遭遇する頻度が高い疾患の西洋医学的な知識を理解する。 また、各疾患に対する現代西洋医学的な鍼灸治療法を学ぶ。			評価方法			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 習得した基礎医学から臨床医学における各疾患を理解する。			期末試験 85% その他(出席状況、授業態度等) 15% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第2章 第1節 疼痛(概説 頭痛 顔面痛 1)						
第2週	第2章 第1節 疼痛(概説 頭痛 顔面痛 2)						
第3週	第2章 第1節 疼痛(概説 頭痛 顔面痛 3)						
第4週	第2章 第1節 疼痛(関節痛 頸頸腕痛 1)						
第5週	第2章 第1節 疼痛(関節痛 頸頸腕痛 2)						
第6週	第2章 第1節 疼痛(上肢痛 肩関節痛 1)						
第7週	第2章 第1節 疼痛(上肢痛 肩関節痛 2)						
第8週	第2章 第1節 疼痛(腰下肢痛 腰痛 1)						
第9週	第2章 第1節 疼痛(腰下肢痛 腰痛 2)						
第10週	第2章 第1節 疼痛(下肢痛 膝痛 1)						
第11週	第2章 第1節 疼痛(下肢痛 膝痛 2)						
第12週	第2章 第1節 疼痛(胸痛 腹痛 1)						
第13週	第2章 第1節 疼痛(胸痛 腹痛 2)						
第14週	第2章 第1節 まとめ 1						
第15週	第2章 第1節 まとめ 2						
授業外 学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中		佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 東洋医学の診断(四診)ができる。 2. 得られた所見から病態を想起できる。 3. 東洋医学の考えに基づき、病態把握ができる。 4. 得られた情報から治療方針がたてられる。			評価方法			
授業概要	東洋医学の診断技術(四診)の方法や病態把握について講義し、その実習を行う。			定期試験 100%	(100点換算で60点以上で合格)		
教科書等	新版東洋医学概論、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)、新版経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター、ベッド、ディスプレイ、鍼、もぐさ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	東洋医学の診断と治療						
第2週	問診						
第3週	主訴の問診						
第4週	東洋医学の基本的問診事項						
第5週	その他の問診事項						
第6週	問診の病態把握						
第7週	望診						
第8週	舌診<舌質>						
第9週	舌診<苔質>						
第10週	舌診の病態把握						
第11週	聞診						
第12週	声診						
第13週	気味						
第14週	異常音						
第15週	病態把握						
授業外学習指示等	基礎となる東洋医学概論を復習しておくこと。また、日常的に多くの人に四診を実践し、経験を積むこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 II	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	星野 英二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	取穴の際に必要な体表解剖を習得し鍼灸の臨床に応用する。			評価方法			
授業概要	ペアを組みメディスンペンで骨の指標や筋の走行を体表に描いて取穴をする。 取穴した部位に刺鍼しパルスを用いて筋の収縮を確認する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、経絡経穴概論	使用器材	パワーポイント、メディスンペン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	上肢の解剖学(上肢帯骨、自由上肢骨、上腕の筋、前腕の筋、手の筋)						
第2週	上肢帯骨の触察 肩甲骨(肩甲棘、肩峰、内側縁、上角、下角、外側縁、烏口突起) 鎖骨(鎖骨体、肩鎖関節、胸鎖関節)						
第3週	自由上肢骨の触察 上腕骨(大結節、小結節、結節間溝、外側上顆、内側上顆、尺骨神経溝) 橈骨(橈骨頭、橈骨茎状突起、リスター結節)、尺骨(肘頭、尺骨頭、尺骨茎状突起)						
第4週	手の太陰肺経の取穴						
第5週	手の太陰肺経の取穴および刺鍼						
第6週	手の陽明大腸経の取穴						
第7週	手の陽明大腸経の取穴および刺鍼						
第8週	手の少陰心経の取穴						
第9週	手の少陰心経の取穴および刺鍼						
第10週	手の太陽小腸経の取穴						
第11週	手の太陽小腸経の取穴および刺鍼						
第12週	手の厥陰心包経の取穴						
第13週	手の厥陰心包経の取穴および刺鍼						
第14週	手の少陽三焦経の取穴						
第15週	手の少陽三焦経の取穴および刺鍼						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 安全で正確な刺鍼ができる。 2. 適切な徒手検査を想起し、実践できる。 3. 得られた所見から病態把握ができる。 4. 病態に適した鍼灸治療ができる。			評価方法			
授業概要	刺鍼をはじめとする基本的な治療技術を高め、肩関節の疾患と胸郭出口症候群について徒手検査などの病態把握の方法や鍼灸治療の方法を講義し、その実習を行う。			中間試験 30% 定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、臨床医学総論、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)、新版経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター、ベッド、ディスプレイ鍼、もぐさ、メディカルペン、刺鍼練習台				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス / 授業概要						
第2週	刺鍼の練習 / 診察						
第3週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の病態と病因						
第4週	刺鍼の練習 / 肩関節の解剖						
第5週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の徒手検査法						
第6週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の徒手検査法						
第7週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の禁忌とリスク管理						
第8週	刺鍼の練習 / 肩関節周囲の筋と神経						
第9週	刺鍼の練習 / 肩関節周囲の筋と経穴						
第10週	中間試験						
第11週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の鍼灸治療<腱板や肩峰下滑液包炎の障害>						
第12週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の鍼灸治療<上腕二頭筋長頭腱の障害>						
第13週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の鍼灸治療<肩周囲の筋肉の刺鍼>						
第14週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の鍼灸治療<関節拘縮の刺鍼>						
第15週	刺鍼の練習 / 肩関節疾患の鍼灸治療<野球肩と運動療法>						
授業外学習指示等	1年次に学習した解剖学と経絡経穴概論を復習しておくこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 IV	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	堀之内 貴一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	身体の各部位別に適切な刺鍼・施灸を行なえること、疾患の鑑別に必要な検査法を習得することを目的とする。			評価方法			
授業概要	頭部の疾患の鑑別に必要な検査法を学び、その疾患の鍼灸施術を習得する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	頭部の検査法①						
第2週	頭部の検査法②						
第3週	頭部の検査法③						
第4週	頭部の検査法④						
第5週	頭部の検査法⑤						
第6週	頭部の検査法⑥						
第7週	頭部の検査法⑦						
第8週	頭部の検査法⑧						
第9週	頭部への刺鍼①						
第10週	頭部への刺鍼②						
第11週	頭部への刺鍼③						
第12週	頭部への刺鍼④						
第13週	頭部への刺鍼⑤						
第14週	頭部への刺鍼⑥						
第15週	頭部への刺鍼⑦						
授業外 学習指示等	講義時間内に出来なかった事は各自自習をするなどして技術向上に努めること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 V	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 安全で正確な刺鍼ができる。 2. 適切な徒手検査を想起し、実践できる。 3. 得られた所見から病態把握ができる。 4. 病態に適した鍼灸治療ができる。			評価方法			
授業概要	刺鍼をはじめとする基本的な治療技術を高め、腰下肢の疾患について徒手検査などの病態把握の方法や鍼灸治療の方法を講義し、その実習を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、臨床医学総論、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)、新版経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター、ベッド、ディスプレイ鍼、もぐさ、メディカルペン、刺鍼練習台				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス						
第2週	膝関節疾患の診察手順						
第3週	膝関節疾患の徒手検査法						
第4週	膝関節疾患の徒手検査法						
第5週	変形性膝関節症の診断と治療						
第6週	ジャンパー膝の診断と治療						
第7週	オスグッド病の診断と治療						
第8週	腸脛靭帯炎の診断と治療						
第9週	鷲足炎の診断と治療						
第10週	内側・外側側副靭帯損傷の診断と治療						
第11週	下肢の絞扼性神経障害の診断と治療						
第12週	シンスプリントの診断と治療						
第13週	コンパートメント症候群の診断と治療						
第14週	アキレス腱炎の診断と治療						
第15週	足底腱膜炎(足底筋膜炎)の診断と治療						
授業外学習指示等	1年次に学習した解剖学と経絡経穴概論を復習しておくこと。						